

施 工 要 領 書

ヤブ原産業株式会社
TEL 048 - 297 - 4111

「床下地モルタル浮き補修」

施工方法

- ハンマー打診により浮き上がり間隙と範囲を確認し、注入孔を決め、チョーク等でマーキングする。(200～250 mmピッチ)
直径 6 mm のコンクリート用ドリルビットを使用し、床面に対し直角に穿孔する。穿孔はマーキングにしたがって行い、コンクリート躯体に到達後、更に 2～3 mm 程度とする。
- 穿孔した孔内を、ハンドブローア等を使用して切粉等を除去し孔内を乾燥させる。
- エポキシ樹脂 SSS ボンド #500 の主剤 200 g と硬化剤 100 g を均一になるまで混練してから注入ポンプにセットする。
注入ポンプのノズル先端にウエス (4×4 cm 程度) を当て、そのまま注入孔に差し込んで注入状態を確認しながらゆっくりと注入する。半径 150 mm 程度。
※注入は端から片追いとする。
- 注入口をエポキシパテまたはカチオン性 SSS 樹脂モルタルで埋める。
- 養生は夏期で 24 時間以上、冬期で 96 時間以上衝撃を与えないようにし、降雨等からも養生する。
- ハンマー打診により残存浮き範囲を再確認し、残存浮き部分への注入孔の位置を、チョーク等でマーキングする。
- 注入孔の穿孔は、直径 6 mm のコンクリート用ドリルビットを使用し、床面に対し直角に穿孔する。穿孔はマーキングにしたがって行い、コンクリート躯体に到達後、更に 2～3 mm 程度とする。
- 穿孔した孔内を、ハンドブローア等を使用して切粉等を除去し孔内を乾燥させる。
- エポキシ樹脂 SSS ボンド #500 の主剤 200 g と硬化剤 100 g を均一になるまで混練し、注入ポンプのノズル先端にウエス (4×4 cm 程度) を当て注入口に差し込み、注入状態を確認しながら、残存浮き内に内圧がかからないように片端部から他端部へ打診しながら残存浮部全面に注入する。
- 注入口をエポキシパテまたはカチオン性 SBR 樹脂モルタルで埋める。
- 養生夏期 24 時間、冬期で 96 時間以上。
- 注入部以外に付着した材料はサンダー、ハンマー、カワスキ等で除去し清掃する。
- エポキシ樹脂の注入状況をテストハンマーの打診により確認し、結果を監督員に報告し承諾を得る。打診は注入部及びその周辺 mm 程度 500 mm にわたりおこない、浮きが発見された場合は、速やかに検査結果を監督職員に報告し、補修は監督職員の承諾を受けて行う。

注意事項

- 注入箇所は乾燥した状態で注入を行う。施工後の養生は夏期 24 時間、冬期 96 時間、衝撃や振動を与えないようにする。
- 主剤と硬化剤を均一に混練し、混練後の材料は可使時間以内に使用する。
- 35℃ #1000 32 分、#700 20 分、#500 30 分
23℃ #1000 80 分、#700 25 分、#500 45 分
気温が高い場合は材料を冷却してから混練する。
- 5℃以下での施工は避ける。
- エポキシ樹脂で皮膚がかぶれた場合はただちに作業を中止し、医師の診断を受ける。
- 浮きの状態によっては、SSS ボンドの種類を変えて (#700 や #1000) 施工する。

材 料

SSS ボンド # 500 (JISA 6024 低粘度形)	300 g set
カチオンタイト F (カチオン性 SBR 樹脂モルタル)	20 kg set